介護予防　アシスタントティーチャー授業展開表　１コマ目

■学 生 構　成：４～５人グループ　15～30 人を想定

■フォロー教員：１名～２名

■資料①：実践編①転倒に関わる評価

時間	内容	伝える内容/資料ページ数	準備物	備考
13:00	自己紹介 今日の講義の内容の説明	・今日は何を学んでいくのか説明する。 ・講義の内容を伝える。資料/Ｐ2	・学生用当日配布資料 ・事後ミニテスト ・事後アンケート ・PC ・進行 PPT ・スクリーンまたはモニター ・HDMI ケーブル ・資料①	・スクール形式の対応 ・学生はグループごとに着席している。 ・当日配布する資料を学生に配布している。
13：10 (25 分)	実践編 ① 転倒に関わる評価前半説明部分	・評価の意義を伝える。資料/Ｐ3 ・握力測定について評価方法を説明する。資料/P4 ・握力測定の動画を見る　資料/P5 ・実施の流れを説明 資料/P6 **＊学生とその場で一緒に行うが理想だが、時間がなければ、モデル１名にしてもらう。** ・握力測定の動画を見る　資料/P7 ・5 回立ち上がりテスト説明　資料/P8 ・5 回立ち上がりテストの動画を見る。資料/P9 ・・実施の流れを説明 資料/P10**＊学生とその場で一緒に行うが理想だが、時間がなければ、モデル１名にしてもらう。** ・5 回立ち上がりテストの動画を見る。資料/P11 **＊介助者は、いつでも支えられるようにする。** ・Timed Up and Go Test の説明をする。資料/P12 ・Timed Up and Go Test の動画を見る。資料/P13		

		＊イメージが湧きづらいので動画を先に見せる。 ・実施の流れを説明 資料/P14 ・Timed Up and Go Test の動画を見る。資料/P15 **＊全員で一緒に行うのは混乱するため、代表者を 1 名決めて行う。** **＊介助者は、いつでも支えられるようにする。** **＊介助者は介助中、トップウォッチを見ない。** ・ Fall Risk Index(FRI) 資料/P16 ・実施においての注意点 資料/P17		
13:35 (45 分)	実践編 ① 転倒に関わる評価後半実践部分 **＊人数によって時間を短縮してもよい。** **＊それぞれ 10 分の制限時間を設ける。**	・これから、握力測定→5 回立ち上がりテスト→Timed Up and Go Test（TUG）→Fall Risk Index(FRI) の順で 3 つの測定をグルーで行うことを伝える。資料/P18	椅子×１～２脚 ① ストップウォッチ ② 握力計 ③コーン **＊①②③についてはグループ分用意する。**	実技中心になるためスペースのある部屋が必要 机があれば撤去する。
14:15 (10 分)	実践編 ①転倒に関わる評価 まとめ ミニテスト アンケート	今日の授業のまとめを行う。資料/P24 事後ミニテスト・アンケートを行う。	学生全員スマートフォン	・スクール形式の対応 ・学生はグループごとに着席している。
14：20	片付け 授業終了			

令和 7 年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」
介護予防分科会

本教材は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、≪学校法人敬心学園　職業教育研究開発センター≫が実施した令和 7 年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」の成果物です。